

安曇野市生活支援体制整備事業の実施状況について (第1回安曇野市生活支援体制整備事業第1層協議体)

市では、第8期介護保険事業計画に基づき、地域包括ケアのより一層の推進に向けて、生活支援体制整備事業を実施しています。安曇野市介護保険等運営協議会は、この事業の市全域の課題等を検討・協議する場として、第1層協議体に位置付けられています。介護保険等運営協議会の開催に合わせて、事業計画及び事業報告を行います。

1 生活支援体制整備事業について

生活支援体制整備事業は、「生活支援コーディネーター（以下、コーディネーター）」と「協議体」の設置等を通じて、地域の支え合いによる生活支援・介護予防を広げ、地域で多様な主体によるサービス提供を推進しています。



(1) 生活支援コーディネーター

地域において、生活支援等サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能（主に資源開発やネットワーク構築の機能）を果たす者で、地域に出向き、地域の中でどんな活動や支え合いがあるのか、どんなことに困っているのかを把握し、サロン活動の活性化や新たな生活支援の体制づくりを担います。

(2) 協議体

地域におけるコーディネーターと生活支援等のサービス提供主体などが参画し、定期的な情報共有及び連携強化の場としています。コーディネーターをバックアップするとともに、地域のさまざまな立場の方たち（区長、福祉事業者、シルバー人材センター職員、地区社協役員、民生委員など）が一緒になって、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくための支え合いの地域づくり等について協議する場となっています。

(3) 第1層、第2層の圏域の考え方

- 第1層 市全域
- 第2層 日常生活圏域（豊科地域、穂高地域、三郷地域、堀金地域、明科地域）

(4) 安曇野市におけるコーディネーター及び協議体の配置

- 第1層コーディネーターとして、市職員1名を配置。(平成28年3月～)
- 第1層協議体は、安曇野市介護保険等運営協議会を充てて設置。(平成28年5月～)
- 第2層コーディネーターは、委託(※1)により各地域に1名ずつ配置。(平成28年4月～)
- 第2層協議体は、委託(※1)により各地域に設置。(平成28年9月～)

※1 豊科地域：特定非営利活動法人 JA あづみくらしの助け合いネットワークあんしん、
穂高、三郷、堀金、明科各地域：社会福祉法人 安曇野市社会福祉協議会

2 令和4年度生活支援体制整備事業報告

(1) 第2層コーディネーターの取組

- 地域のサロン等へ出向くことや拠点で行う活動(地域学習会を含む)などを96回(※2)行うことにより、住民や関連団体へ生活支援や介護予防の必要性を伝えるとともに、それぞれの活動を支援し、助け合い・支え合い活動を広げました。
- 担い手の養成は、コロナ禍で例年より参加者数が少なかったものの、それぞれの拠点等で工夫しながら実施した事業で延べ297名(※3)が受講等し、その中から担い手の支援にもつながりました。
- コロナ終息後を見据えて各地区で行うサロンや趣味活動をどう実施するか、また新規のサロン立ち上げについてなどの相談支援を76件(※4)行いました。

※2 あんしん24回、社協72回

※3 「あんしんセミナー」211名、「あんしんして暮らせる里づくり研修会」31名、「有償ボランティア支援会員育成」10名、「認知症サポーター養成講座」20名、「福祉教室」25名等を養成。

※4 あんしん2件、社協74件

(2) 第2層協議体の取組

- コロナ禍でも工夫をしながら協議体会議を開催(※5)し、地域の課題やこれから必要な資源について、意見交換や学習を行い、移動支援や支え合い事業など地域に必要な事業への取り組みを始めた地区もありました。また、地域課題の解消に向けた学習等を進めました。

※5 開催回数：豊科6回、穂高5回、三郷5回、堀金5回、明科4回

【協議体構成団体・活動内容】

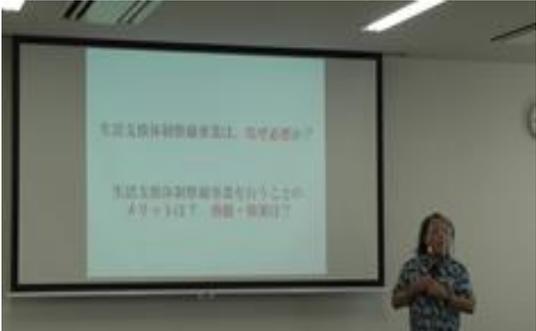
	豊科地域	穂高地域	三郷地域	堀金地域	明科地域
構成団体	支部社協、NPO法人、民生児童委員、介護サービス事業者、シニアクラブ、区長会、包括など11団体	支部社協、NPO法人、民生児童委員、介護サービス事業者、ボランティア連絡協議会、シニアクラブ、シルバー人材センター、包括、PTAなど16団体	支部社協、NPO法人、民生児童委員、介護サービス事業者、ボランティア連絡協議会、シニアクラブ、公民館、包括など13団体	支部社協、NPO法人、民生児童委員、介護サービス事業者、ボランティア連絡協議会、シニアクラブ、シルバー人材センター、公民館、身体障害者協会、各地区社協、包括など21団体	支部社協、民生児童委員、介護サービス事業者、ボランティア連絡協議会、シニアクラブ、シルバー人材センター、薬剤師会、包括など11団体

内容	<p>「高齢者の移動支援」の課題に取り組んでおり、アルプス区でモデル的な移動支援を開始しました。協議体の役割を改めて見直す中で、参加団体の連携、情報共有を図りました。</p>	<p>白金区で有償による支え合いの仕組みをつくり活動を始めました。立足区では区の有志等が会を立ち上げ、市の施設整備費補助金を活用して備品を揃えた上で、樹木の伐採や高齢者宅の屋外整備などの活動を始めました。また穂高南小 PTA 会長が協議体委員に加わり、お寺を子どもの居場所とする活動を始めた。</p>	<p>課題となっていた地域での居場所を確保するために、昨年度から中萱区で試験的に始めたサロンを通年開催し、高齢者の交流の場となりました。また、コロナ後を見据えたサロンの立ち上げ等の相談に応じました。</p>	<p>小地域での支え合いの仕組みづくりに向けて全戸アンケートを実施し、地域課題を確認し、支え合いの仕組みを検討しました。</p>	<p>ワークショップからあがった課題である「居場所づくり」を進めるため、男性が参加しやすいサロンを実施するため、コーヒー講座や料理教室を開催しました。</p>
----	---	--	---	--	---

(3) 第1層コーディネーター・協議体の取り組み

- 市と第2層生活支援コーディネーターとの打ち合わせ会議を月1回行い、各圏域の実施状況を確認する中で、当事業における課題の検討や進捗状況を確認しました。
- 各コーディネーターの具体的な活動を周知するため、広報紙「ほほえみのわ」を年2回発行しました。
- 希望者に生活支援サービスガイドブックを配布し、地域の資源について周知を図りました。
- 第1層協議体を2回開催し、生活支援体制整備事業の取組状況の報告をしました。
- 各地域の協議体活動を推進するため、協議体委員向け研修会及び市民向けの「地域支え合い推進フォーラム」を開催しました。

	協議体研修会	地域支え合い推進フォーラム
開催日	令和4年8月24日(水)	令和5年2月25日(土)
主題	協議体活動の原点と運営方法	地域の実践から今後の地域共生社会を考える
方法	生活支援体制整備事業の目的と協議体活動についての講演及びコーディネーターとの懇談	講演及び各地域の活動紹介
講師	ご近所福祉クリエイション ご近所福祉クリエイター 酒井 保さん	社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター 徳永 雄大さん、元持 幸子さん

内 容	<p>全国的に本事業の取り組みについてフィールドワークを行っている講師に、地域包括ケア体制づくりなどについて講演をいただき、後日動画で協議体委員に視聴していただきました。各コーディネーターにとっては、活動する中で日ごろ抱えている悩みについて相談する機会となり、また協議体委員も本事業の目的や協議体の役割を再認識していただく機会となりました。</p> 	<p>【講演】 「協議体のめざすものとは」</p> <p>【活動紹介】 〈豊科地域〉 ・アルプス区区民主体の移動支援に向けて 〈穂高地域〉 ・立足地域支え合いの会 ・お寺体験ツアー「子どもの居場所を増やそう会 2023」 〈三郷地域〉 ・四季の庭 ・みたけ会 〈堀金地域〉 ・岩原盛り上げ隊 ・扇町雪かき助け合い 〈明科地域〉 ・木戸区ミニミニサロン ・あいらず健康麻雀教室</p>
参 加 者	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーター、市社協職員、市職員 11名 ・協議体委員動画視聴 2協議体 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーター、区長、民生児童委員、シニアクラブ会員、介護保険事業者、市職員等 52名 ・市公式 YouTube 動画視聴 112回

3 令和5年度生活支援体制整備事業活動計画

(1) 目標

- 第8期介護保険事業計画に基づき、生活支援・介護予防サービスの基盤整備を推進するため、新型コロナウイルス感染症の終息状況を見据え、地域活動の再開や新たな活動の取り組みの支援を進めます。そのために地域福祉担当部門やまちづくり部門、公民館活動等との連携を深め、関連団体との情報共有・連携強化の場となる協議体活動を通じて、高齢者等が暮らしやすい地域づくりを進めます。

(2) 主な取組

- 行政区などでの懇談、学習会を行うことにより、地域での支え合いや助け合いの意識を広めます。
- 地域で生活支援や介護予防に関する活動をしている実践者（運営者）及び新たに活動を希望する方の相談・支援に応じ、地域の支え合い体制づくりを進めます。

- 高齢者のみならず、地域のあらゆる世代とのつながり・協働により、地域の多様な主体による支え合い体制づくりを支援します。関連する事業として、地域見守り活動の周知を図り、参加団体を増やします。
- 高齢者の安全運転を推進するため、長野ダイハツ販売株式会社が主催する「健康安全運転講座」を後援します。(年2回)
- 生活支援コーディネーターの認知度を高め、各協議体の活動を周知するために、地域ごとに年2回広報紙を作成し地域で回覧します。
- 地域ごとの協議体活動を進めつつ、さらなる活動の推進に向けて第2層協議体の「研修会」を開催します。
- 市民への支え合いや助け合いの意識を深め、地域課題に取り組む活動をすすめるため、市内の実践者を交えた「地域支え合い推進フォーラム」を開催します。
- 生活支援サービス（配食、軽作業等）や通いの場（地域サロン、趣味娯楽等）などをまとめた「生活支援サービスガイドブック」について、コロナ後の情報を加えた改訂版を発行します。